

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170600136		
法人名	有限会社アルファ企画		
事業所名	グループホームみどりの丘		
所在地	佐賀県武雄市武雄町大字昭和229番地		
自己評価作成日	平成25年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成25年12月24日	外部評価確定日	平成26年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>武雄市の中心街にありながら自然を感じられる御船山と田んぼに囲まれ毎日の生活を送る事が出来る。設立10年だが一貫して理念に掲げているように、ゆったり、楽しく、安全に生活を送っていただくように職員一丸となって取り組んでいる。特に家庭的な雰囲気を大切にし、御家族にもいつでもお越しいただけるようにしており、家族会なども開催している。今後も御家族の意向に配慮するケアに努め、隣接する宅老所とも相互協力し入居者一人ひとりの尊厳を保ち、残された人生に一つでも多くの笑顔が見られたらと思います。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>武雄温泉駅から徒歩5分、自然に囲まれた事業所は宅老所に隣接されている。道路隔てた公園は、春には桜が満開となり、静かな通りも人でにぎやかになり交流も多くなる。職員は理念を意識した支援に努めながら、それぞれの機能を活かした支援を行なっている。また、入居者一人ひとりの介護計画に添った、その人らしい暮らしを支援しており、利用者の笑顔が喜びとなっている。職員間の意思の疎通も良く、お互いに協力しながら利用者の支援にあたっている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内、事務室などの目の届くところに掲示 全体ミーティングで確認徹底	理念は、ホームの見やすい位置に掲示し、また職員のミーティングなどで意識付けを確認している。日々の介護の中では理念に基づいたサービスが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的な運営推進会議の開催。地域の方々にホーム内行事に招待している。(みどりの丘会など)地区の夏祭りや運動会などの案内に職員、利用者が参加している。ゴミ集積場の掃除当番。	地域との連携も重要と理解し、自治会に加入している。区費の支払い、ゴミ集積場の清掃等、出来る範囲で地域の一員として交流が出来る。行事時には地域住民に参加の呼びかけを行い楽しく交流できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に参加いただき利用者ホーム内の様子を実際に目にしてもらい声掛けや相談に乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部よりの意見や見方を取り入れ、全体会議で報告、検討するしサービス向上につないでいる。	運営推進会議は家族の代表や地域の民生委員などの参加で行われているが、開催回数は年1回程度と少ない。議事録には施設内の出来事など報告が記載されている。	運営推進会議は外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会ととらえ、行政はもとより、家族会や地域の方々からの参加を募り、定期的に開催ができるよう努力されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に訪問しお互いの情報交換をしている。通所介護などで要支援者の利用あり。	市の担当者とは管理者を中心に連携がとれ、必要時には連絡、相談が出来、また入居者の紹介など受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は施錠なし。	身体拘束に関する施設内で勉強会を行い、職員は拘束の弊害を理解し、拘束のない支援に取り組んでいる。玄関も昼間は施錠されておらず、自由に入出入りができる。入居者の外出気配時には、さりげなく付き添い見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティングなどで意識の向上に取り組む。外部講習に参加し情報の共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	情報を仕入れているが、職員全体での共有までには至っていない。現在利用中のかたはいないが、必要時是对応したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。ご家族との会話の中で色々意見を聞く機会を持ち、運営に反映させている。	苦情処理の体制や意見箱の設置はあるが中々入ってこないのが現状であるため、家族とは面会時や家族会を通し、入居者、家族の様々な思いや意見を聞き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃より個人面談の機会をもっている。	管理者も施設内に常在しているため、職員からの意見や提案を聞く機会が多い。ケアの有効性を考え勤務体制の変更など出された意見は運営に活かせるよう検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握に努めており、昇給、賞与に反映。又食事会などの場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人差にあわせ外部研修を受けてもらったり、社内勉強会を行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	武雄地区連絡協議会に所属しており月1回の会合に参加し交流。出来る限り他施設訪問にも心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人はもちろん御家族との十分な話し合い、情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心して預けられる雰囲気にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何がいちばん必要とされているのか、十分な話し合いに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	命令口調にならないように気をつけ、共通話題を見つけて笑顔が見られるように努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を細かに報告し状態を把握していただいた上で、家族と共に見守り対応して行く様に心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも対応。	入居者一人ひとりの生活歴や人とのつながりの情報収集に努めている。行きつけの美容室など入居者から要望があれば職員が付き添い、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけホール、茶の間にて過ごしていただきお茶の時間や会話の時間を持っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関などに入院されたときなど頻繁に訪問しご家族からの相談にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	スタッフ間で意見共有し、それぞれの利用者様にあった対応に努力している。	入居時の本人の性格や生活歴の情報をもとに、日々の関わりの中で声をかけ、思いや意向の把握に努めると共に、表情や動作を観察し本人主体のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや御家族より十分な話を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	十分に努めていると思う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各居室担当者を決めサービス担当者会議に出席する事により、意見を出してもらい計画作成している。	家族には面会時などに介護計画の確認や要望を聞くようにし、担当者中心にモニタリングは行われている。全職員が観察した入居者の思いや変化などを出し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	目標に応じた記録、月1回のモニタリング。全体会議で情報を共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、歯科受診、訪問美容サービス、医者往診など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中心街に位置している為、図書館、ショッピング、文化会館など気軽に利用できている。外食等。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	充分に行っていると思う。	協力医はいるが、従来からのかかりつけ医の受診を支援している。受診は基本的に家族送迎となっているが、都合がつかない場合は職員で対応している。受診結果はその都度必ず家族に伝えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態、変化については常に連絡を取り合い、適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ドクターを交えて、御家族の希望を最優先にして対応している。	重度化や終末期対応については、契約時に本人や家族に事業所対応についての説明が行なわれ、同意を得ている。入居者の状態に合わせて家族と話し合う体制はできている。家族と事業所は方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルにより社内研修を行っているが、今後はもっと強化して行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練年2回。今後回数を増やして行き災害対策に対応できるようにする。	職員全員が参加し、昼夜を想定した年2回の避難訓練を実施し、専門的な指導も受けている。避難場所は近くの公園に定め、家族にも伝えている。今後は非常用備蓄も検討されている。	職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、訓練から近隣住民の参加協力を得るなど実践的な取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大声を出さないよう気をつけ対応。言葉使いに気をつけるよう今後も努力して行く。	個人情報の利用目的を明確にし、入居契約時に家族に説明し同意を得ている。また、入居者を人生の先輩ととらえ敬意、一人ひとりを尊重した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の希望や、やりたい事などできるだけ聞いて思いを引き出すように話しかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に寄り添い、出来るだけ会話を優先、気持ちを把握するよう努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パジャマから普段着に更衣、洋服選び、外出時の化粧など支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で食材下ごしらえ、トレイ拭き、配膳、つぎ分けなどして頂いている。	食事の献立は、入居者の要望などを聞き、その日の担当職員が立て調理している。食後のトレイ拭きなど、入居者ができる事は、職員が見守りながら支援している。調理された食事を入居者の側で一緒に摂り、食を楽しむ支援を行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録により状態の把握。それに応じた支援(食事の内容や形態の見直し)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア体操の実施、口腔ケアの介助		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間回数をチェックし誘導や声掛けをしている(ボードを作成)	職員は入居者一人ひとりの排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握している。昼はトイレで排泄できるよう誘導し支援している。失禁された場合でもさりげなく誘導し交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、食事に野菜を充分取り入れている。毎日の体操や廊下歩行など運動の取り入れ。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めているが、心身の状態や希望にあわせて順番を決めたり沐浴に変更したりしている。	決められた入浴日はあるが、希望があればいつでも入浴できる。入浴を楽しめるよう浴槽は流水ができるなど工夫がなされている。体調不良等で入浴ができない入居者には清拭などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の方は昼寝をして頂いたり室内の温度調節をして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケアマネジャー、看護師からの説明伝達を確実にし全員が把握し支援する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の把握に今後も努めて行き支援に活かしたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節にあわせドライブや散歩。病院受診は出来るだけ家族に同行して頂き外出して頂く。	季節に合わせたドライブや地域の行事への参加、また、日々の生活の中で天気のいい日は近くの公園までの散歩やスーパーまで買い物支援し、入居者の希望に沿った外出支援を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在個人でお金管理可能な方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	わずかだが可能な限りホームの電話使用で話をされる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた雰囲気作りに努めている。温度差湿度差に配慮している。	玄関やホールの壁には入居者が作成された季節を感じる手芸品などが飾られている。ホール内は加湿器など配置し室内環境を整えている。入居者はソファで思いおもいにくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は自由に居室に入ったり、また気のあったもの同士ソファに座ったりして会話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真などや習字、毎月のカレンダーなど掲示	居室はなじみの品の持ち込みは可能で制限はない。カレンダーや写真などが見受けられ、一人ひとりに合ったその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、風呂場などの表示。手すりの設置。ホーム内はフラットスペースにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない